ポスター発表

2025年11月1日(土) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-45] 七尾市中心市街地における令和6年能登半島地震による建物倒壊の空間分布

*桐村 喬[1]、楮原 京子[2] (1. 京都産業大学、2. 山口大学)

キーワード：中心市街地、公費解体、点群、建物高さ、現地調査

令和6年能登半島地震では，地域の中心都市である七尾市も大きな被害を受けた．本発表では，七尾市中心市街地を対象として，地震直後の2024年2月の建物の倒壊状況の現地調査結果，解体が一定程度進んだ2025年2月の現地調査結果，空中写真から作成した点群に基づく2014年と2024年の建物高さという，3つのデータを用いて，建物倒壊の空間分布について検討する．分析の結果，地震直後の調査結果と解体が進んだ時期の調査結果からは，中心市街地の西側の地区に建物の倒壊が多い傾向が認められた．建物高さの変化を見ると，すでに地震までに滅失した建物を除いて，現地調査結果とある程度対応しており，定量的にも中心市街地西側で被害が大きかったことが確認された．このような中心市街地内での東西差の要因としては，過去の地盤沈下対策などとの関連が指摘できるが，今後の検証が必要である．

©一般社団法人地理情報システム学会